

平成26年度

事業報告書

平成26年 4月 1日から

平成27年 3月 31日まで

東京都港区北青山2-5-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団

理事長 小林 栄三

第1号議案 平成26年度（H26.4.1～H27.3.31）事業報告・決算承認の件

I. 平成26年度（H26.4.1～H27.3.31）決算報告

（損益計算書） 資料—1 「損益計算書 推移」参照

【経常収益】当初計画より 8.4 百万円 増加 (117.2 → 125.6)

（主要因）

- ・円安等による基本財産金利受取増 (82.1→87.4 百万円) 5.3 百万円
- ・一般寄付金増 (24→26.8 百万円) 2.8 百万円

【経常費用】当初計画より 4.4 百万円 減少 (△117.1 → △112.7)

（主要因）

- ・新事業（シャンティ）認可遅れによる減 (4.8→1.6 百万円) △3.2 百万円
- ・人件費減 (48.8→45.5 百万円) △3.3 百万円
- ・賃借料 (10.2→8.7 百万円) △1.5 百万円
- ・電子図書配布数増加による経費増 (8.1→9.6 百万円) 1.6 百万円
- ・助成金 (21.9→23.4 百万円) 1.5 百万円

【当期経常増減】当初計画より 55 百万円 好転 (0.1 → 55.1 百万円)

上記に加え、期末時価評価換による評価益 41.6 百万円と期前償還による償還差益 0.6 百万円があった。

（貸借対照表） 資料—2 「貸借対照表」参照

- ・総資産は昨年末に比較し 60 百万円増加となった。主たる要因は上記。
- ・基本財産/定期預金は、3 月下旬に 2 億円の期前償還があったため 3 月末では定期預金としたことにより前年度比それぞれ増減したが総額では評価損益分のみの変動。
- ・運用資産 46 億 85 百万円 利回り 2.02%

監査報告書のついた決算報告書は、末尾に「資料—3」として添付してあります。

Ⅱ. 平成 26 年度 事業報告

子ども文庫助成事業

1975 年より継続して実施している国内外で子どもの読書活動を草の根活動として携わるボランティアの皆様に加えて、平成 26 年度は新たな取り組みとして東南アジアの子どもたちに向け「絵本を届ける運動」にも参加しています。

1. 平成 26 年度 助成件数・金額

本年度の助成件数・金額は、以下の通りとなります。

	予 算		応募件数	実 績	
	助成件数	助成金額		助成件数	助成金額
① 子どもの本購入費助成	併せて		117 (3)	47 (3)	14.1
② 病院施設子ども読書支援購入費助成	48	14.4	13 (—)	8 (0)	2.4
③ 子どもの本 100 冊助成	30	4.5	54 (6)	22 (3)	2.9
④ 子ども文庫功労賞	2	0.7	6 (—)	2 (0)	0.7
⑤ 東南アジアの子ども達へ絵本を贈る					1.1
小 計	80	19.6	190 (14)	79 (6)	21.2
【指定寄付金に基づく助成】					
⑥ 伊藤忠商事及び社員・株主 100 冊 (丹羽基金による海外助成を含む)		2.3		被災地 日本人学校	1.5 0.7
合 計	80	21.9	190 (14)	79 (6)	23.4

助成金額 合計 23.4 百万円

①子どもの本購入費助成（現金助成）

・対象

子ども文庫（家庭文庫、地域文庫等）又はその連合体（こども文庫連絡会）等において、子ども達の読書啓発、指導を行っている民間団体、個人。

・内容

図書等の購入、充実を目的とした購入費を 1 件当たり 30 万円助成。

②病院独資支援 購入費助成（現金助成）

・対象

小児病棟等で長期闘病中の子ども達や、心身障害児施設、養護施設等で生活している子ども達に対して読書啓発、指導を行っている民間団体、個人。

・内容

子ども達が様々な障害を乗り越えて読書を楽しむための支援を目的とした図書、機材の購入費、図書作成費等を 1 件当たり 30 万円助成。

③子どもの本 100 冊助成（図書現物助成）

・対象

上記①、②共通

・内容

当財団が選書した 100 冊の児童書セット（小学校低・中・高学年別の 3 種類）のうち 1 セットを贈呈。

④子ども文庫功労賞

・対象

子ども文庫あるいは児童図書館を永年に亘り（概ね 20 年以上）運営されてこられた又は、子ども文庫の普及に貢献されてこられた個人。

・内容

1 名につき 35 万円（5 万円相当の商品、副賞 30 万円）

⑤東南アジアの子どもたちへ絵本を贈る（絵本の現物助成）

・対象

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会を通じ東南アジアの子ども達

・内容

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が主宰する「絵本を贈る運動」に大震災の被災地の子ども読書ボランティア活動のプログラムに組み入れていただき、伊藤忠商事社員ボランティアと共に子ども達に参加してもらう。絵本の届け先は、東南アジアの国。

⑥伊藤忠商事及び社員・株主による被災地及び海外への 100 冊(図書現物助成)

・対象

東日本大震災の被災地で子ども達のための読書啓発活動をされている学校又はボランティア団体、個人。

海外の日本人学校・補習校において子ども達の読書啓発・指導を計画又は実践されて学校運営者又は運営ボランティア

・内容

伊藤忠商事の指定寄付金（社員・株主から集めた寄付金に伊藤忠商事が同額を上積みした金額）を原資として当財団が選書した小中学生向け 100 冊の児童書セットを贈呈。

2. 展示会参加

今年度より従来電子図書普及事業のみが参加していた各地の展示会のうち協同で出展可能なものに文庫助成も参加し、文庫助成の紹介と説明を行い。同時に応募希望者にはリストに記載してもらい 4 月以降の新規応募開始の際には書類を送ることにした。

	場所
4月	・文部科学省 こども読書フォーラム
8月	・日本子どもの本研究会（東京） 日本子どもの本研究会（滋賀）

3. 助成事業部 経費内訳

	予算	実績
・助成金	21.9	23.4
・贈呈式費用	3.5	3.8
・その他 経費	11.4	11.9
・人件費	14.6	19.3
計	51.4 百万円	58.4 百万円

電子図書普及事業

障害のある子どもたちの読書環境の整備を事業目的としている。具体的には、対象児へ読む喜びや学習機会を提供するために、わいわい文庫と名づけた電子図書の製作と寄贈を行っている。あわせて、障害のある子どもたちの読書支援ができる人材の養成や、広く一般に電子図書を知って頂く機会を提供している。

1. 電子図書の製作、配布

前年度製作した電子図書 55 作品を全国の特別支援学校など 909 か所の団体に寄贈した。前年比+240 と大きく伸びたのは、特別支援学校校長全国大会や横浜市立小学校校長役員会などで事業説明の機会を頂けたことが理由と考えている。また、利用した小学校の特別支援教育教諭間での口コミからの寄贈希望を多く頂いた。平成26年度は61 作品を製作。新しい試みとして、鳥取県立図書館と協同で、郷土の昔話シリーズの製作を開始。各都道府県立図書館に協力を求め、作品収蔵を目指していく。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
寄贈作品数	31	38	58	55
寄贈先	1154	572	670	909

2. 利用促進活動

- ・12 団体の利用成果をまとめた小冊子「わいわい文庫活用術②」と書影ポスターを電子図書に同封。
- ・オリジナル作品の提供（24 作品）
著作権者に使用許可を頂いて製作。著作権法に抵触せず、多くの方に電子図書を見てもらい、障害のある方の読書環境を考えて頂くことをねらいとしている。

3. 広報・啓蒙活動

読書バリアフリー研究会の開催（後援：文部科学省、公益社団法人全国学校図書館協議会、開催地教育委員会など）

障害のある子どもたちの特性を知り、読書支援の方法を学ぶ研究会。大学教授など専門家を講師にお招きし、対象は成人一般。26 年度は学校教諭、図書館員など専門職の受講が多くあった。

	会場	参加人員
5月	・こどもの城（東京）	46
	・こどもの城（東京）	33
6月	・岩手県立図書館	33
	・愛知県図書館	43
	・大阪市立中央図書館	53
10月	・徳島県立図書館	35
	・高知県教育センター 分館	43
	合計	286

【講演】

様々な団体から財団職員が招かれ講演などを行う

	訪問先
5月	・ひきふね図書館新人研修会
6月	・高知機器展セミナー
7月	・愛媛県立図書館図書館職員研修会
	・葛飾中央図書館 区図書館職員研修
8月	・全国学校図書館研究大会（甲府）
10月	・高知県図書館大会
11月	・図書館総合展
1月	・東京都立墨東特別支援学校 学校公開パネリスト

【展示会】

電子図書館の実演を中心に行う

	展示会名
4月	・子どもの読書活動推進フォーラム（文部科学省）
6月	・高知福祉機器展
	・全国特別支援学校校長会全国大会
7月	・マジカルトイボックス
8月	・日本子どもの本研究会 第31回研修会
	・全国学校図書館研究大会（甲府）
	・全国子どもの本と児童文化講座滋賀大会
	・奈良県立明日香養護学校
11月	・サイトワールド
	・学校図書館げんきフォーラム
	・JBBY40周年企画 子どもの本の力展
12月	・ATACカンファレンス 京都
1月	・日本弱視教育研究会

【事業説明】

事業協力や周知のお願いのため訪問（主な個所）

その他、北海道立図書館等 25 館、沖縄県立泡瀬特別支援学校等学校 25 校、
 童心社等出版社 15 社

	展示会名
4月	・東京大学先端科学技術研究センター ・日本書籍出版協会
5月	・東京都西部学校経営支援センター
6月	・熊本県教育委員会 ・日本病院患者図書館協会
10月	・文化庁 ・文藝家協会
11月	・沖縄県教育委員会
3月	・北海道特別支援教育センター ・北海道教育委員会

4. 電子図書普及事業部 経費内訳

	予算	実績
・電子図書 事業費	7.3	8.4
・その他 経費	10.3	9.8
・人件費	18.0	18.3
計	35.6 百万円	36.5 百万円